

特集 食育授業を行うためのアプローチの仕方 **私のアプローチ方法Ⅱ****食育の提案は基本的に断らない**

兵庫県立阪神特別支援学校 栄養教諭 西原 美代子

「食育の提案は基本的に断らない」をモットーにしています。難しい場合も、「この日ならできる」「この形ならできる」「と代替案を考えるようにしてきました。続けていくうちに、「去年もこんな授業していたよね」と声をかけていただける機会も増えていきました。

また、直接やりとりする場面だけでなく、共有ネットワークに教材を載せたり、校務分掌の部会を通して学年向けに活用できる内容を発信したりと、「どこかで誰かの琴線触れたらいいな」という思いで、できることを少しずつ積み重ねています。

こんなことができますアピールをする

熊本県立湧心館高等学校（定時制）栄養教諭 福岡ちづる

1 担任（学年主任）に指導案の冊子を渡す

自分ができる授業の指導の流れ（45分）を冊子にして、授業ができそうな先生に渡します。渡して忘れられても、自分ができる指導の流れ、教材を作ることによって授業のイメージができ、教材に興味が出てくるため、子どもたちが学習している内容と献立作成が結びつきやすくなります。

2 教務に尋ねてみる

8月30日か9月5日の防災週間に合わせて給食で防災食を出したいが、どのようにしたら授業に入れるかと後輩から相談がありました。そこで、始業式は意外と15分～20分は時間があるので、教務に相談してみらどうかと提案しました。すると、教務はすぐ賛同してくださったとのことでした。職員会議で提案すると、学校長が「素晴らしい取組なので、自分の話の時間を減らしてでも防災食（防災教育）をするように」と後押ししてください、実施できたそうです。当日の給食でも各クラスを回って充実した指導を行えたという報告がきました。

3 校内研修のメンバーの一員になる

名前だけでなく、必ず実際に研修に参加します。全く関係のない内容でも参加するようにすると、学校がどのように動いているかが見えてきます。最初は億劫で、他の先生にどう見られているかと不安になりますが、意外と先生方も自分には関係のない内容の研修に参加しておられ、本音の話を聞いて安心しました。

研修では、チームで一人1本ショートの手引案を作ることになり、私が作った指導案で全学年の担任が指導をしました（中学校所属時）。また、自作の手引資料（パワポ）を見せて、**こんなことができますアピール**をすると、学活で資料提供したり、授業に入ったりできました。